

ヨハネの福音書 第12章 24節 (地に落ちた麦)

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」

農夫の手から離れ、地に落ちる一粒の麦の様子は田園風景でのありふれた出来事です。種蒔き人の一瞬の姿をとらえ描いた画家もいます。ここは蒔く者の姿ではなく、蒔かれた一粒の物語についてであります。一粒に秘められているいのちの行方の物語です。一粒が死ねば豊かな実を結ぶのです。死ななければ一粒だけで終わりです。

蒔かれた種が頑なに粒のままではようとすれば、腐って終わりです。しかし、粒が砕かれると新しい命が芽吹きます。時期が来れば一粒から無数の実が結びます。自然の営みが教えてくれる、いのちの物語です。

地に落ちて死ぬは一大事です。危機です。ところが、その危機が豊かな実を結ぶ通路となります。ひとりの存在が、危機に直面し、自分の殻に閉じこもり、自分にしがみつき、自力でなんとかしようとするれば腐ります。しかし、御手に死ねば、豊かな実を結ぶ約束があります。危機が人の祝福となり、天の農夫の栄光を現します。